

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）
授業・セミナー開催報告書

報告日：2019年3月29日

招聘者氏名	中 真生、松田 毅
被招聘者氏名	晏萍 YAN Ping
被招聘者 所属機関・職位	大連理工大学・助教
日時	2019年3月26日
場所	人文学研究科 B棟小ホール
参加者	全員9名（うち女性教員2名、女性研究生1名、女性院生6名）
授業・セミナーの内容	
<p>「ダイバーシティ研究環境をめぐる交流セミナー」</p> <p>中真生准教授とともに、中国の女性研究者の状況を報告することを通して、女子学生のロールモデルとして神戸大学の学生や若手研究者と交流を図った。YAN氏は、参加者ひとりひとりの質問に、自身の経験を交えて丁寧に答えた。たとえば将来の就職の不安、職場での男女格差の問題、研究テーマを有用性を勘案して決定した方がよいかという問い、将来研究を続けるかどうかの悩みなどが提出された。氏は、たとえば、海外に留学し学位を取ることや、日本語、英語、中国語の3か国語を話せることはアカデミックな職に就くのに有利に働くこと、留学の機会を多くの学生が得られることは氏の時代よりも恵まれていると伝えた。また、留学中にどのようなことをやったらよいかという質問に対しては、内容は問題ではなく、やるべきことにベストを尽くすことそれがのちに生きてくると答え参加者を励ました。また学問の有用性の問題については、中国では従事している学問が役に立つかどうかの問題になることがあるが、役に立つかどうかではなく、やりたいことをやるのが最も重要であり、だからこそ、その分野、その仕事を苦なく継続することができるという説いた。男女の平等については、中国は日本よりは進んでいるものの、まだ昇進や重要なポストの占有率などに関して「ガラスの天井」があると説明した。ただ文学部に関しては、女性教員が男性教員を上回っているという事実を披露し、参加者を驚かせた。</p>	